

読売

教育ネットワーク

社会はまるごと学校——
すべての大人が先生です



マイナビ第5回全国高校ビブリオバトルで、決勝戦の舞台上上がったバトルー（前列）とゲスト（後列左2人目から右へ、朝井リョウさん、原田マハさん、三輪記子さん）ら（2・3面へ）

巻頭特集

マイナビ第5回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会

優勝は静岡県代表・遠藤駿介さん ^{2・3}

広がる「キャリア教育」 荒川区立第三中（東京都）
鎌倉市立大船中（神奈川県鎌倉市） ^{4・5}

読売NIE土曜サロン 新年度から講師リレー式に ⁷

第4回 全国ユース環境活動発表大会 環境大臣賞に長崎県立五島高校 ⁶

読響フレンドシップ・コンサート 実施校募集 ⁷

英キングス・カレッジ・ロンドン「学問を深めたメキシコでの現地調査」 ⁸

2019.2

Vol.50

マイナビ 第5回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会

高校生が愛読書の魅力を熱く語る書評合戦「マイナビ第5回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会」が1月20日、東京都千代田区のみよりり大手町ホールで行われた。観戦客500人の投票の結果、ミステリー小説「最後のトリック」を紹介した静岡県代表の県立富士宮西高校2年遠藤駿介さんが優勝した。

決勝大会には、地方予選でチャンプ本を獲得するなどした45人が出場。7グループに分かれて予選を戦い、各グループの1位が決勝に進んだ。観戦客は、高校生バトラーの工夫を凝らしたプレゼンテーションに大きな拍手を送り、「どれも読みたい。一冊に絞るのは難しい」といった声も聞かれた。ロビーには紹介本の即売コーナーが設けられた。高校生のバトルに刺激を受けて、ランドチャンプ本やマイナビ賞の本がすぐに売りきれとなった。第5回大会の地方予選は昨年7月からスタート。新たに北海道、富山、高知、福岡など6道県でも始まり、全国38の都道府県で行われた。活字文化推進会議が仙台、東京、大阪、広島で主催したプロック大会と合わせ、参加校数は過去最高の900校近くに達した。



「皆さん、今までに人を殺したことはありませんか？ あるという方は手を挙げてください。意表を突く問いかけに会場がどよめく。新聞小説を連載中の作家の元に、「読者が犯人になる」というミステリーのアイデアを買ってほしい」という手紙が送られてくるというストーリー。「書店で『殺人犯は今、この本を手に取っているあなた』という帯が目に入り、思わず買いました。大きな身ぶり手ぶりを交えながら、力強い口調でたたみかけしていく。「僕は絶対に犯人にならないぞって思いながら読んでいきました。でも、読み終えた瞬間、犯人になってしまい、悔しさと大きな罪悪感が襲ってきた」。半信半疑の様子の聴衆に向けて「とにかく買ってください。犯人になるのも悪くないですよ」と呼びかけた。予選よりも聴衆の年齢層が高いと見て取るや、「犯人にはなりたくない」と言う友人に薦めた時のエピソードを盛り込んだ。質疑応答タイムでも「犯人になって何か変わりましたか」という問いに対し、「本を読むという単純作業で、こんな感情になるのか、本はすごいと思うようになりました」と返し、アドリブ力の高さを見せた。表彰式でゲストの原田マハさんからトロフィーを受け取り、「これまで本をあまり読んでこなかったけれど、いえ、いっぱい読んできましたが……今日出会った面白い本も読んでいきたい」と語り、最後まで会場を沸かせた。



「最後のトリック」著者 深水黎一郎さん
大会当日の夜、偶然、ツイッターで知って驚き、自分で行うのも変ですが、あのプレゼンを受け、私も読みたくなってしまったと思います(笑)。「最後のトリック」と出会ったことで、遠藤さんの人生は少し変わるかもしれない。そう考えると、作家冥利に尽きます。これからもビブリオバトルで高校生に紹介してもらえようように頑張る書いていきたいですね。(談)



最後のトリック 深水黎一郎著/河出書房新社

◆準グランドチャンプ本 深掘りする感覚 知的好奇心を刺激



「皆さんが思っているよりも穴の世界は深いのです。この本を読んで、穴の世界に迷い込んでみてください」。経済学、哲学、数学、言語学など様々な専門家が、ドーナツの穴の存在意義や歴史などを考察した本を、よどみない語り口ながら熱く紹介。「単純な問題をあえて深掘りしていく学者の感覚に、読む側は知的好奇心を大いに刺激されます」と魅力を語った。

林仁(じん)さん(昭和鉄道2年) 5円玉には穴が開いていると言うのに、指輪やフラフープを見ても、穴と思わないのはなぜなのか。分かりやすい例も交えながら「言語学的に定義を知れば、穴なのか、穴じゃないのか、迷いが生じた時、皆さんを正しい方向に導いてくれるはず」と呼びかけた。



失われたドーナツの穴を求めて 芝垣亮介、奥田太郎著/さいはて社

◆ゲスト特別賞 超スピードミステリー



「ミステリーが好きじゃない人でも楽しむことができる究極のミステリー小説です」。メリハリのある口調、講義を聴いているような発表で、5分間の持ち時間があっという間に過ぎていく。父の莫大な遺産を相続した一人娘の殺害計画を未然に防ぐイケメン探偵の活躍

佐久間諒さん(関西創備1年) が描かれた本。「新感覚の超スピードミステリー」「そんなよそこらのミステリーとは臨場感、格が違う」「誰もが度肝を抜かれる奇想天外のトリック」。時に声のトーンを高く張り上げながら、魅力をアピールする。中学2年の時に中学選抜ビブリオバトル東京大会に大阪府代表として出場し、優勝した実力者。「頂点を目指してもう一度挑戦したい」と前を向いた。



探偵が早すぎる 井上真偽著/講談社

◆マイナビ賞 最後まで読んでも犯人描かれず



「誰でも読める推理小説がここにあります」。人なつっこい笑顔に、自然な語り口。本好きの知り合いが目の前で、面白さを語ってくれているような雰囲気漂わせ、聴衆を引きつけた。主人公は妹を殺害された警察官。独自の捜査で容疑者を2人に絞り込んでいくが、最後まで読んでも、どちら

広部太一さん(千葉東立分2年) が犯人か書かれていない。「著者の東野さんいわく、推理小説というのは、読者が注意深く読んで考えれば、犯人が誰かは分かるようになっていくそうです」。自身は単行本を読んでも分からず、ヒントが盛り込まれている袋とじ付きの文庫本を読んでも犯人が分かったという。「文庫本を読んでも分からない人は、インターネットで調べれば分かるようになっていきます」



どちらかが彼女を殺した 東野圭吾著/講談社

その他の決勝進出本	発表者
「折れた竜骨」 米澤穂信著 東京創元社	安達董(すみれ) 滋賀県立高島高校3年
「神様のコードモ」 山田悠介著 幻冬舎	井上敦史 富山県立高岡工芸高校3年
「鈍感力」 渡辺淳一著 集英社	古屋慎人 山梨県立甲府西高校1年

【主催】活字文化推進会議 【主管】読売新聞社 【特別協賛】マイナビ 【後援】全国学校図書館協議会、全国高等学校文化連盟、日本書籍出版協会、ビブリオバトル普及委員会 【協力】河合塾・高校生向けサイト「みらいプラス」



■3月8日 NHKラジオに大学チャンプ出演予定 昨年12月に行われた全国大学ビブリオバトル大阪決勝でグランドチャンプ本を獲得した宮城教育大学の真壁詩織さん(=写真)が、NHKラジオ第1放送の「NHKジャーナル」の名物コーナー「対決! ミニビブリオバトル」に出演する。放送日は3月8日22:00から。



本の魅力 熱くアピール

3講座学ぶ 「校内ハローワーク」

「社会人として求められるものを身に付けさせ、勉強の意義を自ら考えることが出来るようにするために、キャリア教育の推進を教育目標の中心に据えています」
こう話すのは、東京都荒川区立第三中学校（荒川区南千住）の清水隆彦校長だ。

「社会が求めるものを生徒が知れば、授業中の議論も深まり、同時に教諭たちの授業改善にもつながる。最終的には生徒の理解力向上にも貢献するのです」。
2006年に校長として赴任して以降、清水校長は30業種の講師を学校に招く、独自のキャリア教育授業「校内ハローワーク」を行っている。生徒が希望する1講座と、知らない仕事との出会いがあるように設定された2講座の計3講座を1日で学ぶ。

異動先の中学校でもキャリア教育を推進後、2015年に再び荒川三中に校長として戻った。あしかけ13年。清水校長は「校内ハローワーク」の旗振り役を務め、他県の学校にも出向きノウハウを伝えた。

清水校長から昨年、キャリア教育特命担当を命じられ、講師派遣企業などとの連絡調整にも奔走した松浦紀江主任教諭は言う。「疑問点を見つけ出す経験値が、学年が上がるにつれてアップしているのは、毎年の校内ハローワークの効果だと感じています。私の授業では毎回、必ず質問をさせ、その質問をテーマにグループで話し合い、意見交換をさせる展開を意識しています」

将来の青写真イメージ

昨年11月10日開催の校内ハローワークで行われた授業の一つ、日



太田船長（右）と鈴木2等航海士を囲み、生徒からも活発な質問があった

天ぷらそばを例に、いかに日本は輸入に頼っているかを説明する鈴木2等航海士



荒川3中が力を入れている校内ハローワーク。3時間の授業が終了すると全業種の講師に対して生徒が感謝の言葉を述べる

鎌倉市立大船中 神奈川県鎌倉市 全校一斉の「総合的な学習の日」

対話的で深い学びを目指すため、荒川三中同様に毎年度の総合学習を活用し、組織的なキャリア教育を進めているのは、神奈川県鎌倉市立大船中学校（三好晃秀校長）だ。

同校では昨年10月25日、6時限分を使って全校一斉の「総合的な学習の日」が設定された。1、2年生は、鎌倉という観光地を知る現場学習や、職場訪問体験を行った。義務教育の最終年次となる3年生向けには、六つの企業・団体から9人の講師を招く、「企業出張授業」が実施された。

有人潜水調査船「しんかい2000」や「しんかい6500」の元パイロットで、潜水船に計318回も搭乗して科学者らを深海へと案内した田代省三さん（61）が、海洋研究開発機構から講師として参加。深海生物や科学へ関心が高い男子生徒は最前列に陣取った。

「しんかい6500」は水平移動にはプロペラを使うが、調査船自体の持つ浮力と、鉄板などのバラスト（重り）の調整だけで、



しんかい6500で目撃された深海生物を紹介する田代さん



解体点検中のしんかい6500と田代さん（11月7日、神奈川県鎌倉市須賀市の海洋研究開発機構で）

「日本を動かしている企業などの方が自分の人生をからめて話してくれる内容は、机の上だけでは知ることができないものばかり。それを自分の言葉にして人に話し、伝えることは生徒の大きな力となります。各教室を見回っていた岩田明総括教諭が授業のねらいを話してくれた。昨年10月の全校一斉のキャリア教育に参加した1、2年生は今年1月から2月にかけて、各クラス内での発表が2時間行われたという。

机上では得られない内容

下降と上昇ができる。「しんかい6500」の体積は約27立方メートル。重さは約27トンのため、アルキメデスの原理によって海水面では浮きます。そこで鉄板のバラストを積んで下降します」。田代さんから実際の深海調査船の潜水映像とともに説明を受けると、生徒は納得の表情を見せた。深海生物や熱水鉱床などの貴重な映像にも見入り、科学調査への関心は高まったようだ。

広がるキャリア教育

2中学をルポ

文・写真 ● 秋山哲也 (教育ネットワーク事務局)

仕事の意義 社会が求めるものを学ぶ
企業などから講師を招き、その仕事の意義や重要性や、求められている力などについて学ぶ「キャリア教育授業」を系統的、組織的に行う中学校が増えている。義務教育最後の3年間は、生徒たちが自ら将来を考え始める好機ともいえるが、学校側は、授業内容などを充実させる絶好の機会ととらえているようだ。読売教育ネットワークに参加している二つの中学校の授業を紹介する。

環境大臣賞に長崎県立五島高校



さまざまな国から漂着したペットボトルの写真をみながら、活動内容を発表する長崎県立五島高校の生徒たち(築田統央撮影)

第4回 全国ユース環境活動発表大会

全国ユース環境活動発表大会が2月9、10の両日、国連大学(東京都渋谷区)で開かれた。漂流ゴミの調査と有効活用を進める長崎県立五島高校が環境大臣賞、水質浄化に欠かせない植物のアシを使った商品開発に取り組む名古屋市立名古屋商業高校が読売新聞社賞を受賞した。同大会は持続可能な社会をめざす高校生の活動を応援するために開かれた。初めて地方大会を開催した今回は152校が応募し、全国8地域から16校が全国大会に出場した。五島高校など6校が特別賞を受賞した。

日本の未来 勇気づける活動そう

大会レポート

教育ネットワーク事務局
小川祐二朗



「夢が希望につながる実践ばかり。日本も捨てたものではないと思います」——今大会の審査講評で審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大名誉教授はこう述べ、活動を発表した高校生たちに惜しみない賛辞を贈った。同感だ。それほど勇気づけられる内容だった。

日本ではいま、少子高齢化と人口減少、それに伴う財政難や働き手不足、地方経済の衰退などが同時進行している。「課題先進国」とはよく

言ったもので、解決すべき難題が山積している。大人たちはマイナスをプラスに変えようと苦戦しているが、高校生たちも若者らしい発想と突進力で地域の課題に挑戦していることを、この大会で知った。しかも、面白がっているのが発表から伝わってきた。

大会に応募したのは北海道から九州・沖縄まで計152校。「日本も捨てたものではない」という言葉に納得する所以だ。

科学的アプローチ

もうひとつ感心したのが各校とも「エビデンス」(科学的証拠)に基づいた活動を実践していること。環境大臣賞の長崎県立五島高は五島列島に漂着するゴミを調査するた

め、7時間かけて海岸線を一周し、大半の浜辺で漂着ゴミを確認した。ペットボトルに印刷されたバーコードから、製造・発売した企業の所在地がどの国なのか調べる手法もさすがだ。

環境再生保全機構理事長賞の岐阜県立恵那農業高は、里山の環境を守るため、ミツバチに注目。どんな花に訪れているか、ミツバチが運んだ花粉のDNA分析から突き止め

た。動脈硬化などに予防効果があるという報告が相次ぐ植物油のエゴマを栽培するアイデアも、情報収集感度の高さがうかがえる。

国連大学サステイナビリティ高等研究所長賞の東筑紫学園高(福岡県)は、地元のカルスト台地・平尾台の湿原調査のため、測量に加え、ドローンを使って植生も調べた。これらの成果には舌を巻く

が、地元大学や企業が技術支援していることも各校から報告され、若者たちが地域の多様な人を巻き込んで課題解決していく、大会の描く近未来社会を垣間見ることができた。発展途上国を活動場所にした学校、英訳した活動内容をネットで世界へ発信する学校もあった。

柔らかな頭で地域振興を

主催者が高校生たちの活動の道しるべにしているのが、2015年に国連サミットが採択した「持続可能な開発目標」(SDGs)だ。動植物の保全や気候変動など従来の環境保全活動が重視してきた項目に加え、貧困解消や健康、技術革新、街づくりなど17の目標を掲げている。

地球環境に与える負荷を極

力小さくしながら、成長を図る企業・団体に投資が集まり、ブランドも向上する——30年時点のめざすべき社会像を提示することで、現在のギャップを埋めていく試みだ。

読売新聞社賞の名古屋市立名古屋商業高は、水質保全や生物の多様性維持に欠かせない植物のアシを原料に、外国人旅行客向けのうちわなどを作った。広島県立世羅高はコイの養殖で有名な地元で発色の悪い稚魚が大量に捨てられていることを知り、稚魚を使った魚醬を作ったり、コイに水田の除草をさせて育てたコメを売り出したりする予定だ。大人の考えつかない斬新なビジネスモデルが、現状打破へ向けた環境保全や起業につながればいい。

受賞校	
環境大臣賞	長崎県立五島高校
読売新聞社賞	名古屋市立名古屋商業高校
環境再生保全機構理事長賞	岐阜県立恵那農業高校
国連大学サステイナビリティ高等研究所長賞	東筑紫学園高校
高校生選考賞	愛媛県立上浮穴(かみうけな)高校
先生選考賞	青森県立名久井農業高校

【主催】全国ユース環境活動発表大会 実行委員会(環境省・独立行政法人 環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所)
【後援】読売新聞東京本社

NIE企画デザイナー
秋山さん 卒業
 2代目講師・秋山純子NIE企画デザイナー（元中学校長）

読売NIE土曜サロンは、授業で新聞を教材に使う具体策を学び合う場として2008年1月にスタート。初代講師にNIE実践歴20年の鹿野川喜代美さん（元・都内公立中学国語科教諭）を迎え、有志の小中高大の先生らと一緒に、児童生徒らの心に響く学習指導案作りを語り合ってきました。息抜きと充電の場をかねてお茶やケーキを囲みながら、時にはメンバーで「実社会に目を向けて考える道徳授業」をめざし、道徳に特化したNIE教材を作ったことも。ほぼ毎月第4土曜日の14時から読売新聞東京本社で開催しています。

新聞を活用した学習方法について探る、先生向けの勉強会「読売NIE土曜サロン」が、4月から新講師を迎えてリニューアルします。

パワーアップ！ NIE土曜サロンに 新講師 4月からリレー方式

が今年度でサロン講師は卒業し、4月からはNIEの実践経験が豊かな先生がリレー方式で務めます。

新講師は村山正子・東京学芸大非常勤講師（元中学司書教諭）と庭野優子・東京都文京区立明化小非常勤講師。村山さんは長年、新聞などのメディアを司書教諭の立場から活用。庭野さんは小学校教諭として、授業で新聞を活かしてきた先生です。

3月16日は新講師・村山さんのワークショップ

今年度最後となる3月16日・95回目のサロンでは、村山さんが「誘う、親しむ、広がる...！新聞活用① 新聞基礎知識」と題し、前倒しでワークショップを行います。

また「記者ミニ講演」では、「基礎だけわかる政治の話」をテーマに大石暁記者（現・教育ネットワーク事務局、元・政治部）がやさしく読みときます。参加希望の方は、開催前日まで、メールかFAXで事務局までお申し込みください。



庭野優子さん



村山正子さん

※過去の内容（一部）

【新聞活用法を探るワークショップ】

- ・授業での新聞活用
- ・図書館とコラボした新聞活用
- ・はがき新聞作り

【記者ミニ講演】

- ・運動部（五輪取材の裏側）
- ・世論調査部（投書から見える社会）
- ・メディア局（データベースの活用）

参加
申し込み
(無料)

開催前日までにメールまたはFAXで
読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局へ

- メール nie7717@yomiuri.com
件名：「〇月土曜サロン申し込み」
- ①お名前②学校名③住所④電話番号
- FAX03-3217-8362

2019年度開催予定

2019年 4月27日	5月25日	6月22日	7月なし	8月なし	9月28日
11月2日	11月30日	12月なし	2020年 1月25日	2月29日	3月28日

100回記念

新聞@スクールセミナー

NIE = 新聞活用学習のこと。Newspaper In Educationの略。2020年度から本格始動する新学習指導要領の総則に「新聞活用」が盛り込まれ、学校現場での新聞活用学習が広がっている。

読響フレンドシップ・コンサート 実施校募集

小中学生にクラシック音楽の楽しさを伝える「読響フレンドシップ・コンサート」の2019年度実施校を募集します。読響OB楽団員らによる室内合奏団を小・中学校に派遣し、1時間程度、解説付きで演奏します。希望校多数の場合は抽選。学校側の費用負担はありません。

- 【募集地域】 東京、神奈川、千葉、埼玉の小・中学校
- 【募集数】 7校程度
- 【実施期間】 2019年6月～20年3月
- 【申し込み】 はがきに学校名、担当者名、電話番号、開催希望日を明記の上、下記まで郵送ください。
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-20錦町トラッドスクエア6階
読売日本交響楽団 教育支援担当
- 【締め切り】4月20日（消印有効） 【問い合わせ】☎03・5283・5215

2018年度のコンサートの様子



News

海外で学ぶ・リレーエッセー ⑤0

英キングス・カレッジ・ロンドン
学問を深めたメキシコでの現地調査イェン・ナ・シヨル・アカデミー(米メキシコ州)卒、
キングス・カレッジ・ロンドン(英国)2年(執筆時)

相馬花さん



クラスメートの1人が運転する、5人乗りのセダンに大の大人が6人ですし詰めになり、ラッシュアワーの時間帯を進む。急ブレーキや気まぐれな車線変更で心臓の鼓動がどきどきする間も、車内は笑いに包まれていた。私たちが向かっていたのは、大学のキャンパスに程近い、障害者向け施設で、こうしたコ

キングス・カレッジ・ロンドン

1829年に創立した、ロンドン大学の1カレッジ。主な卒業生にSF作家のアーサー・C・クラークや近代看護教育の母と言われるフローレンス・ナイチンゲール、南アフリカで人種隔離政策(アパルトヘイト)反対運動を進め、ノーベル平和賞を受賞したデズモンド・ツツら。雪の研究で知られる中谷宇吉郎も一時留学していた。



ミュニティーを支援し、意識を高めていくプロジェクトの一環だった。国際関係を専攻するキングス・カレッジ・ロンドンで最初の1年を過ごした後の夏休み、私はメキシコのモンテレイ工科大学のケレタロ・キャンパスにいた。夏休み最初の5週間を私

がどのように過ごすかを決定するメールを、疑心暗鬼にとらわれながら、数か月にわたって受信箱を更新し続け、やっとここにたどり着いた。受け入れ許可が確認できたのはこのプログラムが始まるわずか2週間前だったのだ。おかげで、メキシコでよく使われる俗語「アオリータ」が「今(やる)」とか「あとで(やる)」あるいは「全く(やら)ないかも」という意味も指すことを思い起こさせられる始末だった。

(米国在住中)家族旅行といえどメキシコの歴史的な街ばかりで、人里から離れた観光客向けリゾート地ではなかったこと

を10年近くも父にこぼしていた私からすれば、メキシコに戻って再び小さな町であるケレタロに来ていたことは、不思議だった。しかし、4年間のスペイン語学習と過去のメキシコ旅行の思い出がラテン民族と文化への憧憬を心に育んだ。今では日本

とラテン・アメリカ関係を学びたい、という意欲にもつながった。ラテン・アメリカの中心的存在のメキシコこそがこの地域への理解を深められて、その伸びゆく潜在力に関して学べる場所なのだ。

ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業家)のクラスで、障害者に対する意識を高めるプロジェクトを立ち上げると、障害者らと直接付き合ひ、会話をし、私はいつの間にか施設の所長と何度も話し合い交渉などにも携わっていた。実践的なフィールドワークを通して外国の地方のコミュニティに関わることによって、私はメキシコの人たちの新しい考え方に対



メキシコで行われたフィールドワークの仲間と一緒にの相馬花さん(右から3人目)＝本人提供

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロウシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロウシップの詳細はウェブサイトへ。 <http://ryu-fellow.org>

英語の原文は <http://the-japan-news.com/news/article/0004916203> でお読みいただけます。

する情熱や次世代のメキシコ人たちの目的へ向けて努力する姿勢を目の当たりにし、彼らがメキシコを一段高いところへ導くことは間違いないと再確認できた。

サルサ・クラスで流れる音楽の独特のシンコペーションのリ

ズムは耳に心地よく、忙しく過ぎていく一日が終わりに近づくにつれホスト・ファミリーの居心地よさのおかげでゆったりしたものに変わっていったのである。

(会報編集部抄訳 The Japan News 2018年11月15日)